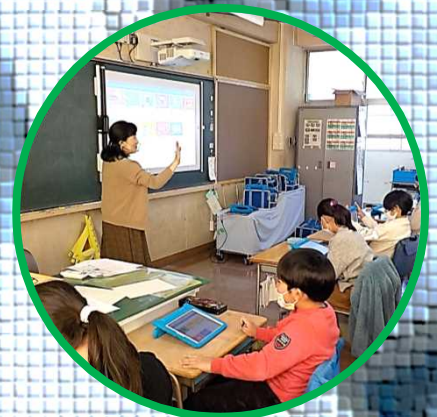


社会連携センター
CENTER FOR COMMUNITY RELATIONS

ANNUAL REPORT 2020



ご挨拶

社会連携センターは平成 21（2009）年 4 月に発足しました。それ以前の産学官等連携推進本部 地域貢献部門がセンターとして独立したものです。平成 21 年度は三木哲也センター長、平成 22 - 25 年度は林茂雄センター長、そして平成 26 - 令和元年度の宮嵯武センター長のあとをうけ、令和 2（2020）年度から奥野がセンター長をつとめております。よろしくお願いいたします。

本学はホームページに公開している 5 つの基本方針 1. 学部教育、2. 大学院教育、3. 研究、4. 社会貢献、5. 大学運営 に沿って活動しています。4 の社会貢献には 3 項あり、一つめは学術による貢献、二つめは産学官連携による貢献、そして三つめが次になります。

「開かれた大学として、地域の諸組織、個人との交流・連携を強化し、地域社会の発展に寄与する。」 この 4.3 項の基本方針を実践する主な主体が社会連携センターであると考えております。平成および令和の国立大学法人が実施すべき活動のひとつであると位置づけられています。電気通信大学社会連携センター規程の（目的）第 2 条は次のようです。「センターは、電気通信大学の有する知的資源を地方公共団体や NPO 等に還元し、地域社会の活性化に貢献するとともに、地域社会との連携を通して本学の教育研究の活性化及び深化を図ることを目的とする。」

令和 2 年 3 月から、COVID-19 により本センターの活動は、まずは全面中止となりました。わたしも当初は、社会連携の活動は、人と人との直接的な交流がもっとも重視されることのひとつであろうから、遠隔などでやるものではなく、憂いがなくなってから再開すればよいと感じておりました。しかし大学の授業および社会全体で遠隔の催しに慣れてくると、遠隔の良さも認識するようになりました。令和 2 年 12 月 1 日（火）に本センターとしてはじめて、オンラインを含めた催しを実施しました。本学関係者以外の学内立ち入りが制限されているなか、武石典史ボランティア推進室長を中心にボランティア養成講座を開きました。調布市の協定大学および一般の調布市民からは、オンラインで参加をいただきました。令和 3 年 1 月 9 日（土）にオンラインのサイエンスカフェを開いた際には、新潟や大阪の高校生を含んだ参加者に向けて、本学とともに主催者である調布市 文化生涯学習課の羽柴秀亮様から調布の紹介をしていただきました。講演では時間いっぱいまでチャットでの質問と議論が続きました。そしてもちろん、感染対策をしっかりと行いながら徐々に、先方から要請されて、8 月 14 日（金）をかわきりに科学講座などにでかけていております。昨年度よりも数は減ったものの、神奈川県、埼玉県、渋谷区、そして調布市立小中学校で講座を実施しています。特殊な年となったこの 1 年の記録という意味でも、社会連携の様子を本冊子に記します。

令和 3（2021）年 3 月

社会連携センター長 奥野 剛史（基盤理工学専攻 教授）

Annual Report 2020 目次

ご挨拶	1
社会連携センター活動カレンダー	3
1. 社会連携企画室の活動	
○ 調布市との連携	5
○ 調布市主催美化活動への参加	8
○ 調布特別支援学校との連携	11
○ 中学生職場体験	16
○ 近隣住民との清掃活動	17
2. 地域学習推進室の活動	
○ 公開講座	19
○ サイエンスカフェ Chofu	25
○ 三鷹ネットワーク大学との連携	27
○ 調布市国際交流協会日本語ボランティア講座	29
3. 青少年科学教育推進室の活動	
○ 調布少年少女発明クラブ／子ども工作教室	31
○ 渋谷区教育委員会との連携	36
○ 出前講座（プログラミングワークショップ）	38
○ 大津サイエンス☆ラボ	39
○ 埼玉県松伏町科学教室	41
4. ボランティア推進室の活動	
○ ボランティア活動支援	44
○ 学生からのボランティア活動報告	47
○ ボランティア養成講座	50
○ 調布市・東京都教育関連セクターとの連携	52
○ 花植え活動	53
社会連携センター運営委員会委員	55

2020年度 社会連携センター活動カレンダー

月日			活動内容
8月	14	金	夏休み小・中学生科学講座「大津サイエンス☆ラボ～磁石で動く謎の液体」
10月	2	金	調布市相互友好協力協定締結大学定例会（第1回）
	16	金	第9回調布駅前クリーン作戦
	30	金	調布市立第七中学校「職業の話を聴く会」
11月	10	火	松伏町科学教室（松伏町立松伏小学校）
	13	金	調布市令和2年度喫煙マナーアップ・受動喫煙防止キャンペーン
	18	水	松伏町科学教室（松伏町立松伏第二小学校）
	28	土	出前講座「プログラミング・ワークショップ」（調布市立第二小学校）
12月	1	火	公開講座「ボランティア養成講座」
	2	水	松伏町科学教室（松伏町立金杉小学校）
	4	金	調布市相互友好協力協定締結大学定例会（第2回）
	19	土	調布少年少女発明クラブ「光オルゴールの製作 プリント基板」
	25	金	公開講座「子どもに教える方のためのプログラミング教室」
	28	月	公開講座「冬やすみ親子プログラミング・ワークショップ」
1月	9	土	ハチラボ科学クラブ講座「発光の科学」（後期） サイエンスカフェChofu 第16回
	27	木	調布特別支援学校へのICT教材作成支援・最終報告会
2月	4	木	調布市国際交流協会「日本語ボランティア 日本語指導力を伸ばす勉強会」指導（第1回）
	6	土	出前講座「プログラミング・ワークショップ」（調布市立第二小学校）
	13	土	調布少年少女発明クラブ「光オルゴールの製作 本体ケース」
	14	日	三鷹ネットワーク大学推進機構設立15周年記念事業における記念講演 田野俊一学長「ポストコロナの超スマート社会を先導する新たな大学像」 （2月28日（日）まで動画配信）
	18	木	調布市国際交流協会「日本語ボランティア 日本語指導力を伸ばす勉強会」指導（第2回）
	20	土	調布少年少女発明クラブ「光オルゴールの製作 音楽テープ」
	26	金	調布市相互友好協力協定締結大学定例会（第3回）
3月	2	火	公開講座「おうちで始めるジャグリング」（第1回）
	3	水	公開講座「おうちで始めるジャグリング」（第2回）
	7	日	調布市協定大学ゼミ展（第7回調布まち活フェスタ）
	9	火	公開講座「おうちで始めるジャグリング」（第3回）
	10	水	公開講座「おうちで始めるジャグリング」（第4回）
	28	日	公開講座「春やすみ親子プログラミング・ワークショップ」

1. 社会連携企画室の活動

- 調布市との連携
- 調布市主催美化活動への参加
- 調布特別支援学校との連携
- 中学生職場体験
- 近隣住民との清掃活動

調布市との連携

本学は、調布市と平成 15 年 5 月 20 日に相互友好協力協定を締結し、文化、教育、学術の分野で援助、協力することにより相互発展を図ることとしている。

また、同じく相互友好協力協定を締結する明治大学、桐朋学園大学、桐朋学園芸術短期大学、白百合女子大学、東京外国語大学、東京慈恵会医科大学、ルーテル学院大学の 7 大学とは、調布市を中心として様々な分野において継続的な連携を推進している。

1. 相互友好協力協定締結大学定例会

調布市と相互友好協力協定を締結するすべての大学（以下、「協定大学」という。）が、調布市が主催する定例会に参加し、情報交換・意見交換を行っている。令和 2 年度は以下のとおり開催した（いずれの回も Zoom によるオンライン開催）。

【第 1 回】令和 2 年 10 月 2 日（金）午後 2 時 ～

【第 2 回】令和 2 年 12 月 4 日（金）午後 2 時 ～

【第 3 回】令和 3 年 2 月 26 日（金）午後 2 時 ～

2. サイエンスカフェ Chofu

本学と調布市の主催、電気通信大学同窓会「目黒会」の共催により平成 29 年度から「サイエンスカフェ Chofu」を開催している（※本イベントについては 25 頁に詳しく掲載）。

3. 調布市協定大学ゼミ展

令和 2 年 2 月に調布市と協定大学とが連携して初めて開催した「調布市協定大学ゼミ展」は、今年度は、地域とのつながりを更に強固にすべく、市民団体の交流、市民活動の活性化を目的に開催している「調布まち活フェスタ」に、一団体として参加することとした。

【第 7 回調布まち活フェスタ】

開催日時：令和 3 年 3 月 7 日（日）午前 10 時 ～ 午後 3 時

（Youtube でのオンライン開催）

主 催：第 7 回調布まち活フェスタ実行委員会

共 催：社会福祉法人調布市社会福祉協議会 市民活動支援センター

後 援：調布市、調布市教育委員会

今年度の「調布まち活フェスタ」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインで開催されることから、協定大学定例会で協議の上、前回の様子を撮影した動画を活用しながら、新規参加団体を募集することとし、白百合女子大学児童文化学科制作ゼミの参加が

決定した。

本学に関しては、前回の大学院情報理工学研究科 機械知能システム学専攻 宮寄・金森研究室の学生 5 名による出展「アーチェリー矢の飛翔特性」の様子が、上記の動画の一部として放映された。

4. 令和元年度連携実績に係る調査

令和 2 年度は、令和元年度に調布市と協定大学とが実施した連携事業に係る調査が、調布市により実施された。結果は調査報告書として、調布市 WEB サイトに掲載されているが、本学との連携実績に関しては、表 1 のとおりの結果となった。

表 1：令和元年度 調布市との連携実績

No.	実施日・実施時期	事業内容	本学担当部署等	依頼者	区分	調布市担当部署
1	平成31年4月1日 ～令和2年3月31日	椿教授に調布市総合計画策定推進委員を委嘱（平成21年から継続）	大学院情報理工学研究科 椿 美智子 教授	調布市	継続	行政経営部政策企画課
2	平成31年4月4日・令和元年 6月17日・7月17日～8月6日 （メール審議）・9月11 日・10月21日・11月20日・ 12月18日・令和2年2月19 日・3月18日	市長が次の役職に就任 ・経営協議会委員 ・学長選考会議委員 ・学園活動後援会会長	総務企画課秘書係（経営協 議会、学長選考会議）、 学生課（学園活動後援会）	本学	継続	行政経営部秘書係
3	令和2年2月27日	令和2年国勢調査調査員募集リーフ レットの配架	総務企画課基金・卒業生係	調布市	新規	総務部総務課
4	令和元年6月21日・9月27 日・12月6日・令和2年2月 21日	相互友好協力協定締結大学定例会の 開催	総務企画課基金・卒業生係	調布市	継続	生活文化スポーツ部 文化生涯学習課
5	毎月5日	市報毎月5日号への市民対象事業の 掲載	総務企画課広報係	本学	継続	生活文化スポーツ部 文化生涯学習課
6	令和元年5月25日・7月12 日・9月14日・11月9日・ 令和2年1月18日	共催事業として「サイエンスカフェ Chofu」を実施	総務企画課基金・卒業生係	調布市	継続	生活文化スポーツ部 文化生涯学習課
7	平成31年4月1日 ～令和2年3月31日	古本募金「本でつなぐ未来プロジェク ト」における古本の回収ボックスを たづくり11階に設置	総務企画課基金・卒業生係	本学	継続	生活文化スポーツ部 文化生涯学習課
8	平成31年4月1日 ～令和2年3月31日	校舎内に調布市専用の広報ラックを 設置	総務企画課基金・卒業生係	調布市	継続	生活文化スポーツ部 文化生涯学習課
9	平成31年4月1日 ～令和2年3月31日	調布少年少女発明クラブの企画運営委 員会委員として委嘱	調布少年少女発明クラブ	本学	継続	生活文化スポーツ部 文化生涯学習課 教育部指導室
10	平成31年4月1日 ～令和2年3月31日	「調布少年少女発明クラブ」を後援	調布少年少女発明クラブ	本学	継続	生活文化スポーツ部 文化生涯学習課 教育部社会教育課
11	平成31年4月1日 ～令和2年3月31日	生涯学習出前講座（協力団体編）への 講座の掲載	総務企画課基金・卒業生係	調布市	継続	生活文化スポーツ部 文化生涯学習課
12	令和2年2月15日	「調布市協定大学ゼミ展」事業実施	総務企画課基金・卒業生係	調布市	新規	生活文化スポーツ部 文化生涯学習課
13	随時	電気通信大学公開講座等に係る チラシ・ポスター等の配架及び掲示	総務企画課基金・卒業生係	本学	継続	生活文化スポーツ部 文化生涯学習課
14	令和元年6月21日・9月27 日・12月6日・令和2年2月 21日	調布市大学プラットフォームを形成 し、定例会を開催	総務企画課基金・卒業生係	本学	継続	生活文化スポーツ部 文化生涯学習課
15	平成31年4月6日	新入生合同研修での消費啓発に関わる 講演	学生課学生係	本学	継続	生活文化スポーツ部 文化生涯学習課
16	令和元年12月20日	公開講座「調布市大学プラットフォーム ・ボランティア養成講座」への協力	総務企画課基金・卒業生係	本学	新規	生活文化スポーツ部 文化生涯学習課
17	令和元年12月8日	佐々木啓子教授、水戸和幸准教授が調 布FM「生涯学習市民活動のススメ」 に出演（「調布市大学プラットフォーム ・ボランティア養成講座」）	総務企画課基金・卒業生係	調布市	新規	生活文化スポーツ部 文化生涯学習課
18	令和元年7月～9月	映画のまち調布シネマフェスティバル 2020の投票箱を図書館に設置	学術情報課 学術情報サービス係	調布市	継続	生活文化スポーツ部 文化生涯学習課
19	令和元年11月10日	第64回調布市民文化祭に古典ギター部 が出演	古典ギター部	調布市	継続	生活文化スポーツ部 文化生涯学習課

No.	実施日・実施時期	事業内容	本学担当部署等	依頼者	区分	調布市担当部署
20	令和2年2月～3月	東京2020オリンピック・パラリンピック聖火リレー 調布市聖火リレーサポーター（ボランティア）の募集に係る広報依頼	総務企画課基金・卒業生係	調布市	新規	生活文化スポーツ部 オリンピック・パラリンピック担当
21	平成31年5月～令和2年3月	地域産業振興講座の参加	産学官連携センター	その他	継続	生活文化スポーツ部 産業振興課
22	令和2年2月11日	留学生ぬくもりツアーの参加者の募集・広報	国際課留学生交流係	調布市	継続	生活文化スポーツ部 産業振興課
23	随時 令和元年6月2日（応募者向け説明会）	調布市子ども家庭支援センターすこやか事業における学生ボランティア募集のポスター掲示。応募者向け説明会の実施。ボランティア登録。イベントなどへの参加。	学生課	調布市	継続	子ども生活部子ども政策課
24	令和元年10月	担当准教授の講義において、調布市子ども・若者総合支援事業『ここあ』の事業紹介をし、学習支援事業に協力できる学生ボランティアを募集し、その場で登録手続きを実施	共通教育部 健康・スポーツ科学部会 大河原 一憲 准教授	その他	継続	子ども生活部子ども家庭課
25	令和元年9月～令和2年2月	ジャグリングサークル講師	学生に直接依頼	調布市	継続	子ども生活部児童青少年課
26	令和2年2月5日 ～令和2年12月12日	第1回学力向上アプリコンテストの後援	特定非営利活動法人 uecサポート	本学	新規	生活文化スポーツ部 文化生涯学習課
27	令和2年1月13日	新年を祝うもちつき大会を開催するにあたり、利用者と一緒にもちをつく「つき手」として参加	アメリカンフットボール部	調布市	新規	子ども生活部児童青少年課
28	令和元年5月4日	調布市民健康づくり始める会（運動部会）主催ウォーキングイベントに学生が参加	アメリカンフットボール部	本学	新規	福祉健康部健康推進課
29	平成31年4月1日 ～令和2年3月31日	回収ボックスを大学構内に設置して、使用済小型家電等の回収連携事業を実施	経理調達課管財係	調布市	継続	環境部ごみ対策課
30	令和元年12月7日	調布市立布田小学校に設置の科学センターにおいて講座を開講	共通教育部教職課程部会 佐々木 啓子 教授	調布市	継続	教育部指導室
31	令和元年5月	「遊ing」ボランティア募集	教職課程支援室	調布市	継続	教育部社会教育課
32	令和元年9月22日	「遊ing」工作教室の講師	調布少年少女発明クラブ	調布市	継続	教育部社会教育課
33	令和元年8月10日	平和フェスティバルの講師として佐々木教授が講演	共通教育部総合文化部会 佐々木 啓子 教授	調布市	新規	教育部西部公民館
34	令和元年4月～5月	新入生のオリエンテーションで図書館利用案内及び「くらしの道しるべ」を配布依頼	キャリア教育部会	調布市	継続	教育部図書館

調布市主催美化活動への参加

(1) 第9回調布駅前クリーン作戦

令和2年10月16日(金)に開催された第9回「調布駅前クリーン作戦」に本学の職員2名が参加しました。

当活動は、調布市が毎年開催し、調布駅周辺をよりきれいな愛される場所とすることを目指し、市民や周辺の事業者とともに清掃活動を行うものです。

当日は好天に恵まれ、参加者は秋の朝の少し冷ややかな気候の中で、8時30分からの1時間、甲州街道から品川通りまでのバス通りを中心とした調布駅周辺の清掃を行いました。本学から参加した職員は、本学が位置する甲州街道周辺のゴミ拾いを重点的に行いました。



(2) 令和2年度喫煙マナーアップ・受動喫煙防止キャンペーン

令和2年11月13日(金)に、調布市が開催する「令和2年度喫煙マナーアップ・受動喫煙防止キャンペーン」に本学の職員3名が参加しました。

当活動は、喫煙マナー向上の普及啓発及び受動喫煙防止を図るため、調布市が毎年開催しており、今回は11月13日(金)～19日(木)にかけて、市内京王線各駅駅頭において啓発・清掃活動を行うものです。

当日は好天に恵まれ、開会式に続いて、およそ30分間、参加者は喫煙マナーPRのためのたすきや腕章を着用し、甲州街道から品川通りまでの駅周辺のエリアの清掃を行いました。本学から参加した職員は、本学が位置する甲州街道までの駅北西エリアを重点的にタバコの吸い殻などのゴミ拾いを行いました。



調布特別支援学校との連携

社会連携企画室長／情報学専攻

准教授 水戸 和幸

1. はじめに

本学は、隣接する東京都立調布特別支援学校（以下、調布特別支援学校）と平成 21 年 10 月に教育連携協定を締結している。協定締結を通して、特別支援教育でのエレクトロニクスや ICT（情報通信技術）を活用した教材開発、学生教育の一環としての連携活動の発展が期待されている。

例年は、総合防災訓練への参加、ボランティア養成講座の開催など、様々な活動を展開してきたが、新型コロナウイルス感染拡大により、多くの活動が中止となった。そのような状況の中で、令和 2 年度は、同校の教員と本学学生との協同による ICT 教材作成を実施したので報告する。

2. ICT 教材作成支援

調布特別支援学校の教員と本学の学生が協力して、ICT 教材を作成する活動であり、平成 23 年度から継続している。教員が授業で使用したい ICT 教材のアイデアやイメージを提供し、本学学生が技術力を駆使して実現化する協同作業である。作成された ICT 教材は、同校の校内ネットワークに保管され、学校全体で活用できるようになっている。

本年度は、I 類、III 類、情報学専攻の 10 名の学生が参加し、10 件の ICT 教材を作成した。1 年間の作業の流れは表 1 の通りである。新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、対面での説明会や打合せの回数や参加人数を制限し、メールやオンライン会議システムを活用しながら活動した。1 月末の調布特別支援学校で行われる最終報告会（図 2）では、学生から完成した ICT 教材の内容、工夫した点や難しかった点について説明があり、担当教員からは実際に授業で利用した感想や学習効果、今後の改善点等について意見を頂くことができ、次年度以降の ICT 教材作成の参考とすることができた。

作成した ICT 教材の一覧を表 2 に示す。作成される教材のほとんどは PowerPoint や Keynote 形式のものであるが、内容に応じて Windows や iOS アプリケーションの開発も行った。

本活動により、学生は、教員としっかりとコミュニケーションを取り、相手のニーズを的確に捉え、合致するモノ（ICT 教材）を設計、実装、テスト、リリースに至るプロセスで開発することを実践的に学ぶ経験ができた。また、開発した ICT 教材を利用する授業風景を見学することで、身に着けた知識と技術が世の中で活かせることに自信を持つことができた。

表 1：ICT 教材作成の 1 年間の流れ

年月日	項目	内容
令和 2 年 5 月上旬～下旬	ボランティア学生 募集	ICT 教材作成に興味・関心のある学生ボランティアを募集する。
6 月 10 日（水）	ICT 教材紹介	調布特別支援学校の教員を対象に過去の教材紹介と教材作成から譲渡までの流れについて説明する（図 1）。
6 月 11 日（木） ～19 日（金）	要望調査	調布特別支援学校の教員を対象に依頼教材の題目と目的、教材のイメージや必要な機能、活用場面などについてアンケート調査を行う。
6 月 22 日（月） ～24 日（水）	担当者割り当て	アンケート調査の内容を学生ボランティアに開示し、希望調査により担当を決定する。
6 月 25 日（木）	教材作成相談会	教員と学生のグループとなり、作成する教材の具体的な内容や必要な機能等について意見交換を行う。
7 月～12 月	教材作成期間	学生ボランティアは依頼内容にもとづき教材を作成する。適宜、メール等を用いて内容の確認、意見交換を行う。
令和 3 年 1 月 27 日（水）	最終報告会	完成した教材の報告。学生ボランティアより、教材の特徴、工夫・苦勞した点について、教員より、授業での利用状況、児童・生徒の反応や学習効果について報告してもらう（図 2）。
2 月～3 月	著作権譲渡手続き	作成した教材の著作権譲渡手続きを行う。



(a) 教材作成から譲渡までの流れの説明



(b) 過去の教材紹介

図 1：ICT 教材紹介の様子



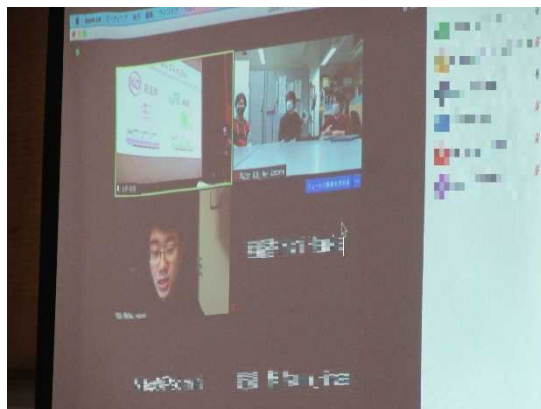
(a) 体育館での報告会開催



(c) 授業での教材利用の様子



(b) 教員による教材の紹介



(d) 学生はオンラインで参加

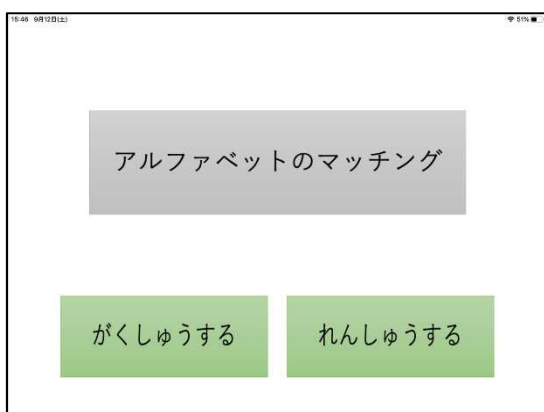
図 2：最終報告会の様子

表 2：ICT 教材一覧

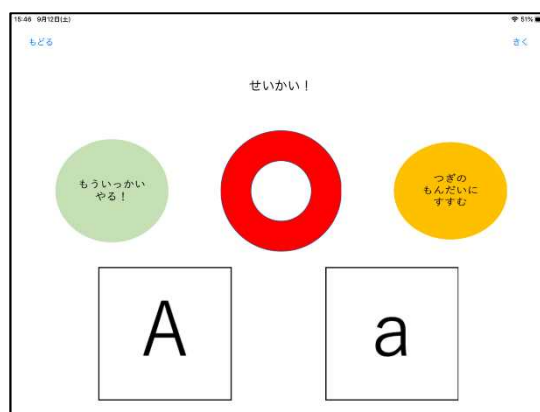
No.	対象学年	科目	教材名	内容
1	小学部 1 年	国語・生活 単元学習	絵本の読み聞かせ	絵本の読み聞かせ教材。集団での劇遊びを児童がイメージを持って取り組めるようにする。
2	小学部 2 年	国語・算数	ことは遊びうた	平仮名学習の導入として、画像と音を利用した発音と平仮名の書き順と発話の学習
3	小学部 3 年	国語・算数	文字や数字を学習しよう	平仮名、カタカナ、数字をゲーム感覚で楽しみながら学習できる教材
4	小学部 4 年	生活単元 学習	IC カードをタッチして電車で乗ろう！ (図 3)	仮想電車乗車で、IC カードをタッチして改札を通る。IC カードを利用した乗車を理解と自信の醸成に繋げる。
5	小学部 5 年	日常生活	時間割～1 日の予定を確認しよう～	時間割内容と時間の長さを視覚的に理解する
6	小学部 6 年	国語・算数	まほうのくれよん	物や色の名称の学習。自分で教材を操作することで教材に注目し、色の変化に気づいたりする。
7	中学部 1 年	作業学習	名刺作成キット	パソコンを利用した名刺作成を学習
8	中学部 2 年	国語・数学	パズルゲーム	絵の内容と向きを認識させるための 2 ピースの絵合わせを学習
9			なぞり教材	線をはみ出さないようになぞる。音がすることで聴覚的にはみ出したことに気づくことができる。
10	中学部 3 年	英語	アルファベットの学習・大文字小文字マッピング (図 4)	アルファベットの形と音声 (発音) をもとに大文字・小文字を学習する教材



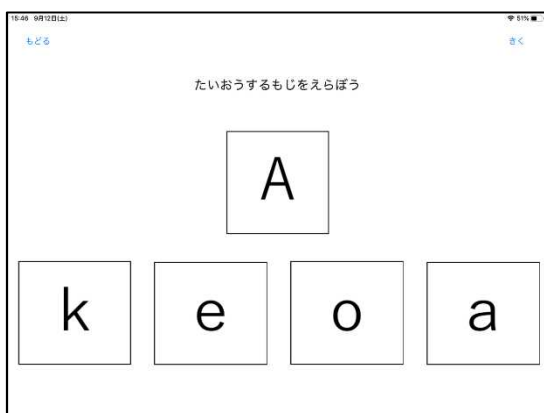
図3：「ICカードをタッチして電車で乗ろう！」の教材



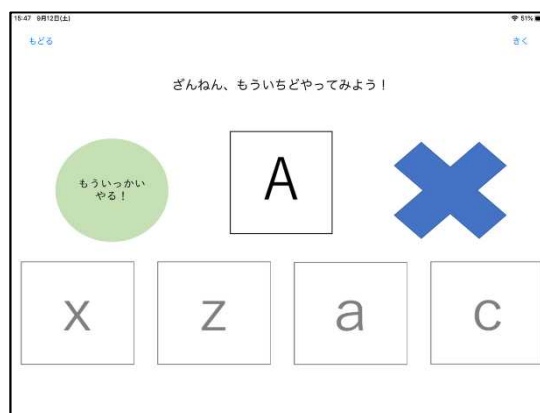
(a) 起動画面



(c) 正解画面



(b) 学習画面（文字選択）



(d) 不正解画面

図4：「アルファベットの学習・大文字小文字マッチング」の教材

中学生職場体験

— 調布市立第七中学校「職業の話を聴く会」 —

令和2年10月30日（金）に、調布市立第七中学校で実施された「職業の話を聴く会」へ、岡本一志准教授（情報理工学研究科・情報学専攻）が講師として参加しました。

本会は、地域の事業所の方々を中学校に招いて職業に関する話をしてもらい、生徒が様々な職業の概要をつかみ、将来なりたい職業について考えるきっかけとするという趣旨の下に同校が実施するものです。

例年は生徒が各事業所を訪問して実施してきた職場体験が、今年度はコロナ禍のために実施できなくなったことを受けて、中学2年生4クラスを対象として10月30日と11月6日の2日間に行われました。

岡本准教授は、自身の経歴や研究内容（推薦システム（協調フィルタリング）に関する研究）の紹介と共に、大学教員という職業の仕事内容や勤務時間、必要資格、福利厚生、ワークライフバランス、やりがいなどについて講演しました。

また、併せて、中学生・高校生でやっておくとよいことや、「学ぶこと」の意義に関する話など、未来ある中学生に向けたメッセージを送りました。

講演を聞いた生徒からは、「博士号を取り、大学教員の職に就くまでにはものすごい時間がかかることを知ってとても驚いた」、「『人間にしかできない仕事がある』という言葉がとても印象に残った」、「将来自分も大学に行きたいと思っているので、ゼミの話や、大学内の話などが聞けてとても貴重な体験になった」などの感想が寄せられました。



近隣住民との清掃活動

— コスモ調布ヶ丘活き活きくらぶとの朝清掃ボランティア活動 —

本学では、平成 26 年より、「コスモ調布ヶ丘活き活き（いきいき）くらぶ」の方々と合同で清掃活動を行っています。

同くらぶは、本学に隣接するマンション「コスモ調布ヶ丘」にお住まいの方々をメンバーとするグループで、現在では、本活動の実施を本学に呼びかけた茂木秀樹氏をはじめ、大釜博美氏、金澤幸博氏（元本学総務課長）、小島輝信氏らが参加されています。

活動は、1 月・2 月・8 月を除く年間を通して、毎週水曜日の 8 時 00 分～8 時 30 分の間に実施し、正門、中門、西門の主要な門の周りを中心に外周の清掃を行っています。

本学からは、奥浩昭名誉教授（社会連携センター運営委員）や佐藤寛之准教授、養老毅暁さん他有志の学生が参加し、活動を継続してきました。

活動開始当初から参加する奥名誉教授は、本活動について、「茂木さんや大釜さんとは、本学と調布特別支援学校の連携活動を通して知り合いました。朝の活動を通し、マンションの人たちが親しい隣人のように思えてきました。うれしいことに、缶やペットボトル、煙草の投げ棄てが目立って減っています。」と話します。

令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染拡大のため、本学が 4 月～9 月の間、正門等の門を閉門し、学生や学外の方の入構を制限したことから、本活動もその間休止し、10 月から再開して、その後は例年どおりに行いました。



（左から）金澤氏、大釜氏、小島氏、奥名誉教授

2. 地域学習推進室の活動

- 公開講座
- サイエンスカフェ Chofu
- 三鷹ネットワーク大学との連携
- 調布市国際交流協会日本語ボランティア講座

公開講座

1. 概要

平成 21 年 4 月 1 日に社会連携センターが設置されたことに伴って、教育担当部署で担っていた公開講座の実施を、本センターが所掌することになった。翌年度には電気通信学部の改組が予定されていたことから、それと合わせて、従来学科持ち回りで開講していた公開講座の専門講座の実施方法等を見直すべく、社会連携センター運営委員会の下に公開講座検討専門委員会を設置して検討し、新たな方式での講座を平成 22 年度から開講した。

平成 26 年 5 月 21 日には、社会連携センター内に 4 つの「室」を設置し、活動内容を整理の上、担当を明確化し、より集中的、戦略的な活動の展開を図ることとした。これらの室のうち、生涯学習の推進及び支援を業務とする「地域学習推進室」が公開講座の検討及び実施を担当することとなった。

令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、4 月から 11 月までのすべての講座を中止又は延期としたが、12 月以降は、感染症対策も兼ねたオンラインによる実施方法を取り入れながら再開していくことができた。

2. 令和 2 年度開講状況

- (1) ボランティア養成講座 調布市における子ども・若者支援活動と電通大生
(※本講座については、50 頁に更に詳しく掲載しています)

講 師：調布市子ども・若者総合支援事業「ここあ」 田村 敦史氏
情報理工学域 2 年生 名執 陸さん
学習支援コーディネーター 西牧 たかね氏

開催日時：12 月 1 日（火）16:30 - 17:30

開催場所：東 5 号館 241 室&オンライン（Zoom）

受講者数：34 名（一般市民及び本学学生・教職員）

- (2) 冬やすみ親子プログラミング・ワークショップ

講 師：教育研究技師部 笹倉 理子 学術技師

開催場所：武蔵エンジニアリング株式会社講義室 B102

- ① はじめての micro:bit

開催日時：12 月 28 日（月）11:00 - 11:40

受講者数：4 組 8 名（小学校 1・2 年生とその保護者）

② micro:bit で光を操ろう

開催日時：第 1 回 12 月 28 日（月） 13:30 - 14:30

第 2 回 〃 15:30 - 16:30

受講者数：5 組 9 名（第 1 回）、4 組 7 名（第 2 回）

（小学校 3～6 年生とその保護者）

（3）子どもに教える方のためのプログラミング教室

講 師：教育研究技師部 笹倉 理子 学術技師

第 1 回

開催日時：12 月 25 日（金） 13:00 - 16:30

開催場所：新 C 棟 103 室

受講者数：1 名

第 2 回

開催日時：3 月 27 日（土） 13:00 - 16:30

開催場所：オンライン（Zoom）

受講者数：3 名

講座内容：

本講座は、平成 29 年度から対面で開講してきたが、令和 2 年度は新型コロナウイルス感染拡大の状況を考慮し、第 2 回（3 月 27 日）を初めてオンラインで開催した。

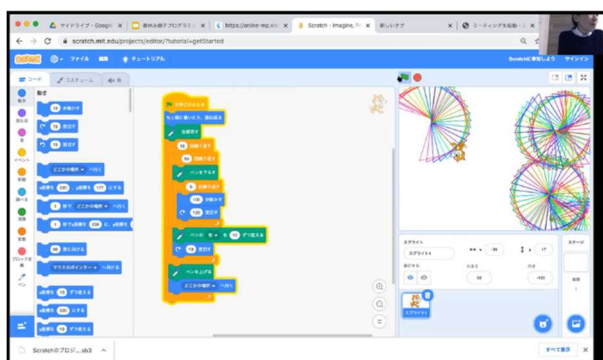
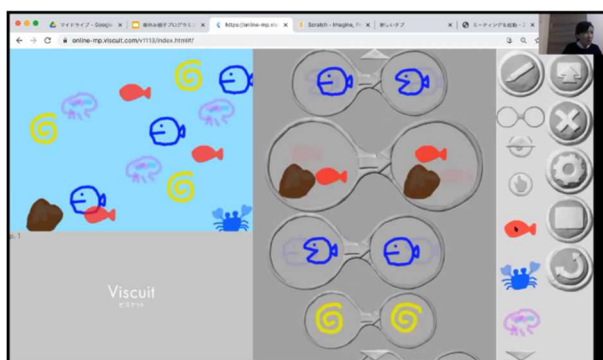
冒頭、Zoom の操作説明、本学及び講師の紹介に続いて、現在小中学校を取り巻くプログラミング教育について話をした。その中で、小学生に 1 人 1 台ずつ iPad や Chromebook が配付され、自宅等でインターネットに接続しての自習が推奨されるような状況を踏まえ、本講座は、ブラウザにおいて完結し、Wi-Fi さえあればどこでも学習可能な内容となっている旨を説明した。

また、プログラミングを学ぶ意義については、文部科学省が最近改訂した学習指導要領においては、情報という分野が、言語のように子供が自然と身につけるべき要素として位置付けられており、プログラミングを学ぶことが、新たな言語を学ぶことと同様に、認識する世界を広げることにつながる旨を説明した。

そして本題に入り、学童用プログラミング言語の中から "Viscuit" と "Scratch" について、講話と演習を行った。それぞれの言語について、準備の方法やプログラミングの手順、機能、使い方などを説明した後で、受講者には、講師のレクチャーを視聴しながら、また不明点は講師に随時質問しながら、各自用意したパソコン等で実際にプログラミングを行ってもらった。

書いたプログラムが正しく作動する（画面上のイラストが動く）か実証し、修正を行う中で、プログラミングの基本は「逐次処理（順次実行）」、「繰り返し」、「条件分岐」の3つであり、この3つの基本処理の組み合わせで、複雑なプログラムも書くことができることを学んでもらった。

受講者からは、「2つのプログラミングを1度に学ぶことができ、とても充実した内容だった」、「講師の実演と同時に受講者も操作することができ、質問もリアルタイムにできて、とても分かりやすかった」、「丁寧に使い方を教えていただき学び直しになった」などといった感想が寄せられた。



（４）おうちで始めるジャグリングーオンラインで習得する～頭を鍛える軽運動ー

講師：情報理工学研究科情報・ネットワーク工学専攻 西野 順二 助教

開催日時：第1回 3月2日（火）

第2回 3月3日（水）

第3回 3月9日（火）

第4回 3月10日（水） 各回 19:30 - 20:30

開催場所：オンライン（Zoom）

受講者数：12名

講座内容：

本講座は、平成22年度から対面で開講してきたが、令和2年度は新型コロナウ

ウイルス感染拡大の影響により従来どおりの実施が難しい状況を踏まえ、初めてオンラインで開催した。

各回講話と実技の双方を行い、講話では、講師の自己紹介や講座の目的（ジャグリングは健康にも社会にも役立つ！）、人工知能研究の観点も踏まえた練習のコツ、ジャグリングの歴史、ジャグリングにまつわる日本の状況などについて説明した。

実技では、参加者が自宅で体を動かすという今回の事情を考慮し、スカーフを用いたジャグリングの応用として、スーパーマーケットで配布されているような厚さ 0.005mm のポリ袋を使用し、ジャグリングの技の 1 である「423」の成功を目標に練習を行った。

講師が手本を見せながら、受講者に各自練習をしてもらい、時々練習の様子を映してもらうことで、講師は確認・指導を行った。

受講者が 423 を完全に習得するには時間が足りないが、本講座終了後も引き続きジャグリングに興味を持って練習を続けてもらえるような講座とすることができた。

受講者からは、「教材や内容などが、オンライン開催を考慮して工夫されていたため、楽しく参加することができた」、「ポリ袋を使った練習方法がとてもユニークで良かった」、「オンライン開催になって大阪からでも参加できるようになり嬉しかった。今後もこの形式で受講できるとありがたい」などといった感想が寄せられた。



(5) 春やすみ親子プログラミング・ワークショップ

講 師：教育研究技師部 笹倉 理子 学術技師

開催場所：オンライン (Zoom)

① はじめての micro:bit

開催日時：3月28日(日) 10:00 - 11:00

受講者数：5組 10名 (小学校1・2年生とその保護者)

② micro:bit であそぼう

開催日時：3月28日(日) 13:30 - 15:30

受講者数：4組 8名 (小学校3～6年生とその保護者)

講座内容：

本講座は、平成29年度から対面で開講してきたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大の状況を考慮し、初めてオンラインで開催した。

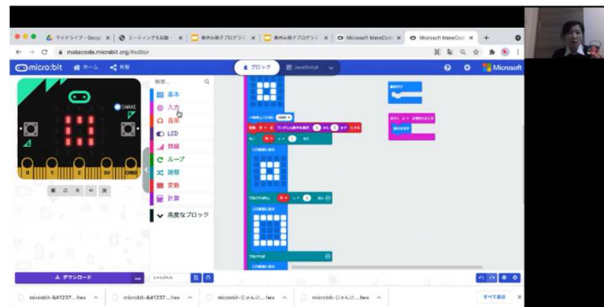
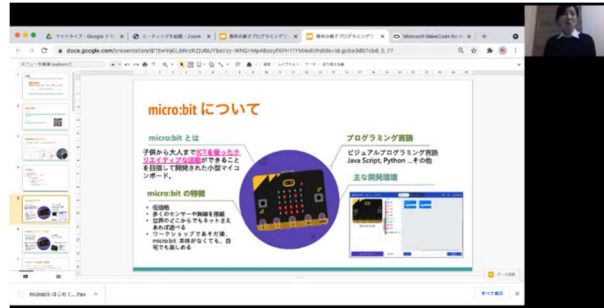
本講座で用いる英国生まれのマイコンボード "micro:bit" は、事前に受講者に送付し、講座当日だけでなく、受講後も希望に応じて一定期間貸し出し、復習や新たなプログラミングへの挑戦などに自由に使用可能とした(後日すべて返却)。

講座では、初めに本学及び講師の紹介や Zoom の操作説明、micro:bit の紹介などを行った。

そして本題に入り、小学校中学年・高学年が受講する「② micro:bit であそぼう」の講座では、揺れた際や傾いた際などの条件下で micro:bit に表示される模様を動かしたり、効果音を出したりするプログラミングを行った。これを様々に応用して、意思表示バッジやサイコロ、コイントスマシンを micro:bit で体現した。また、micro:bit でじゃんけんを可能にするプログラミングを行った。

最後に、プログラミングの基本は「逐次処理(順次実行)」、「繰り返し」、「条件分岐」の3つであることを説明し、受講後も是非復習し、プログラムを使った楽しい遊びをどんどん考えてほしいと話して講座を終了した。

受講者からは、「micro:bit を貸してもらって受講ができて良かった」、「小学3年生でしたが、2時間の講座でも集中して楽しく受講できました」、「コロナ禍のため現地へ行けないので、こういうオンライン講座を増やしてほしい」などといった感想が寄せられた。



※各講座の講師の職名について、大学等の記載が特段無いものは、電気通信大学における職名である。また、開催場所について、大学等の記載が特段無いものは、電気通信大学の建物等である。

サイエンスカフェ Chofu

サイエンスカフェChofuは、電気通信大学と調布市の主催、電気通信大学同窓会「目黒会」の共催により平成29年度から開催しています。

このイベントは、電気通信大学や近隣の大学・研究機関の研究者を講師に迎え、参加者がお茶やコーヒーを片手に、幅広い科学に関する知識を深めるだけでなく、自由な発想で互いのアイデアについて講師と気軽に話し合い、交流を深めることを目指しています。

また、令和元年度からは「調布市大学プラットフォーム」が新たに共催者に加わり、参画大学の講師・会場の下で開催するなど、更なる充実に向けた発展を遂げています。

令和2年1月の第14回開催以来、コロナ禍により約1年間の休止を余儀なくされましたが（令和2年3月～12月に開催予定だった4回は中止又は延期）、令和3年1月に初めてオンラインで開催しました。

第16回 AIで物理学

開催日時：令和3年1月9日（土）14:00 - 15:30

場 所：オンライン開催（Zoomを使用）

参 加 者：一般市民の方 27 名

講 師：電気通信大学 情報理工学研究科 基盤理工学専攻 斎藤 弘樹 教授

概 要：

今回は、電気通信大学の斎藤弘樹教授を講師として、「AIで物理学」をテーマに話をしました。初めてのオンライン開催ということで、冒頭、Zoomの使い方について講師から簡単な紹介を行った後に本題に入りました。

現在、講師の専門である物理学分野において AI（人工知能）が活用されつつありますが、そもそも AI とは何かということで、既に一般的に活用されている事例の紹介から講演ははじまりました。

そして、AI においては、非常に多種多様な（そして曖昧な）入力値に対して、適切な出力を与えるという仕組み作りが1つの課題となっており、その実現には、ニューロンが複雑なネットワークを形成する人間の脳を模倣した、人工ニューラルネットワークに基づく深層ニューラルネットワークにおいて張り巡らされた線の強さである「重み」を調節（＝機械学習）することが必要となることを説明しました。

続いて、AI の物理学への応用例を紹介しました。1つ目に、物理系の制御例として、逆さ振り子の制御や量子渦の制御について、実際の学習計算デモや動画を交えながら紹介しました。2つ目は、量子多体問題などの量子力学の難問を解く応用例について、3つ目は、物理系の状態（相）を見分ける・分類することへの応用例について紹介しました。

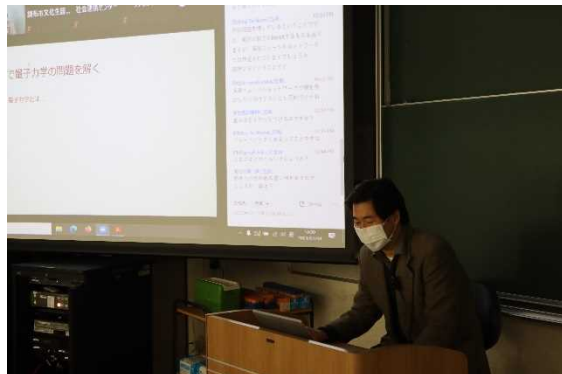
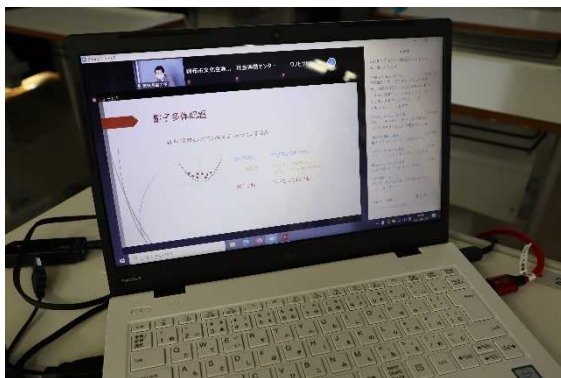
最後に4つ目として、物理法則や新概念を AI に発見させるという究極の目標について説明しました。これは実験で測定される値と質問を入力し、正しい答えが出力されるよう

に AI に学習を行わせることで、その過程で新しい「概念」を抽出することが可能となるというもので、例としてコペルニクスが唱えた「地動説」を AI が実際に発見する様子を、動画を交えながら説明しました。

最後に、上記のように、AI 技術が物理学の研究に応用されつつあるが、現状、AI の出現は物理学にとって「革命的」というほどではないが、将来、「革命」はやってくるのでしようかと参加者に問いかけ、講演を終了しました。

参加者からは、講演中・講演後にチャットを通じて講演内容に関する様々な質問が投げかけられ、講師との活発な意見交換がなされました。

サイエンスを介した新たな交流を生みながら、本会は盛況のうちに終了しました。なお、今回は遠隔地からの参加申込みが半数以上で、かつ高校生が 3 分の 1 にものぼり、オンライン開催の長所が大きく発揮されました。



三鷹ネットワーク大学との連携

三鷹ネットワーク大学は、教育・研究機関の地域への開放と、地域社会における知的ニーズを融合し、民学産公の協働による新しい形の「地域の大学」を目指している。

市民が地域で活躍するための知識や手法の取得を支援することで、地域の人財をさらに生み育て、協働のまちづくりを進める中で、より豊かで安心できる市民生活を実現するために、三鷹市及びその近隣都市にある 20 の教育・研究機関を正会員とし、60 を超える企業や団体等を賛助会員として、平成 17 年より活動を継続している。

本学は、三鷹市と「三鷹ネットワーク大学に関する基本協定書」を平成 17 年 3 月 18 日に締結し、同大学開設時より参加しており、公開講座の開講や、事業の企画運営に関する専門的な事項を調整する企画運営委員会の実施などにおいて協力している（令和 2 年度も引き続き正会員として参加）。

1. 企画運営委員会の実施への協力

三鷹ネットワーク大学を運営する特定非営利活動法人三鷹ネットワーク大学推進機構では、「民学産公」の連携による知的資源を活用した新しい技術やシステムの開発による地域に根ざした産業の支援・創出に寄与することを目的として平成 18 年度から「民学産公」協働研究事業を実施しており、同機構の正会員及び賛助会員が参加している。

当該事業の審査・選考については、企画運営委員会の研究・開発部会に位置付けられる「民学産公」協働研究事業審査委員会において行われており、令和 2 年度は本学の宮嵯武教授（社会連携センター地域学習推進室長）が委員長を務め、以下の活動を行った。

（1）プレゼンテーション審査・選考 令和2年7月3日（金）※Zoomにて開催

応募団体から提出された事業計画書等を参考にして質疑応答を行い、いくつかの項目について委員からのポイントを集計して採択団体が決定された。

（2）中間報告会 令和2年11月6日（金）

（3）成果報告会 令和3年 3月5日（金）※Zoomにて開催

※例年、中間報告会及び成果報告会と併せて実施されている交流会は、コロナ禍により中止となった。

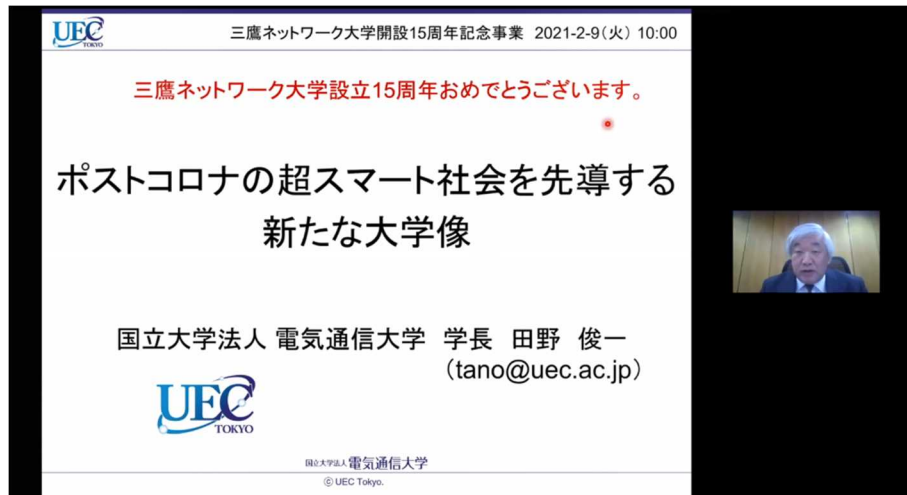
2. 機構設立15周年記念事業における記念講演

令和2年度に三鷹ネットワーク大学推進機構が設立15周年を迎えるにあたり、「明日のまちに向かって！ Next Stage ウィズコロナ、ポストコロナ時代の生き方を考える ～民学産公による協働の新たなステージに向けて～」と題した記念事業が実施された。

本事業のプログラムの 1 つとして、「ウィズコロナ、ポストコロナ時代をどう生きるか」を共通テーマに、9 つの会員大学の学長等が様々な分野や視点で語る講演（録画映像）の

配信が行なわれた。

その中の1つとして、本学の田野俊一学長が「ポストコロナの超スマート社会を先導する新たな大学像」と題する講演を行った。講演は、令和3年2月14日（日）～ 2月28日（日）に、YouTube（三鷹ネットワーク大学チャンネル）にて配信された。



The image is a screenshot of a video lecture. The main content area is white with black text. At the top left is the UEC Tokyo logo. To its right, a header bar contains the text '三鷹ネットワーク大学開設15周年記念事業 2021-2-9(火) 10:00'. Below this, a red line of text reads '三鷹ネットワーク大学設立15周年おめでとうございます。'. The main title is 'ポストコロナの超スマート社会を先導する 新たな大学像'. Below the title, it says '国立大学法人 電気通信大学 学長 田野 俊一 (tano@uec.ac.jp)'. At the bottom left is the UEC Tokyo logo, and at the bottom right is the text '国立大学法人 電気通信大学 © UEC Tokyo.'. On the right side of the screenshot, there is a small video window showing a man with white hair, wearing a suit and tie, speaking.

UEC
TOKYO

三鷹ネットワーク大学開設15周年記念事業 2021-2-9(火) 10:00

三鷹ネットワーク大学設立15周年おめでとうございます。

ポストコロナの超スマート社会を先導する
新たな大学像

国立大学法人 電気通信大学 学長 田野 俊一
(tano@uec.ac.jp)

UEC
TOKYO

国立大学法人 電気通信大学
© UEC Tokyo.

調布市国際交流協会日本語ボランティア講座

1. 調布市国際交流協会「日本語ボランティア 日本語指導力を伸ばす勉強会」指導

[講 師] 笠原（竹田）ゆう子 （国際教育センター教授）

内藤 真理子（国際教育センター准教授）

[期 間] 令和3（2021）年2月4日（木）、2月18日（木）

[形 態] ZOOM によるオンライン開催

[講座概要]

調布市国際交流協会日本語ボランティア26名を対象にZOOMの使い方およびZOOMでの日本語クラスで用いるPPT教材作成実習を行った。

3. 青少年科学教育推進室の活動

- 調布少年少女発明クラブ／子ども工作教室
- 渋谷区教育委員会との連携
- 出前講座（プログラミングワークショップ）
- 大津サイエンス☆ラボ
- 埼玉県松伏町科学教室

調布少年少女発明クラブ（電通大こども発明クラブ）

および 電通大子ども工作教室

青少年科学教育推進室長

調布少年少女発明クラブ会長 奥野 剛史

電通大の発明クラブと工作教室も、当然ながら COVID-19 の影響を大きく受けました。まず、令和元（2019）年度の終わりの 3 月の活動が中止になり、修了式は行えませんでした。1 年間の活動を終えた 42 名のクラブ員小学生には修了証を郵送しました。令和 2（2020）年度は、3 月 7 日（土）に B202 室で予定していた抽選会は中止になり、わたしたちの方で抽選を行わざるをえなくなりました。当選した 42 名の本科生にはしばらく開催は延期との案内をしました。そして議論を重ねた令和 2（2020）年 7 月 20 日に、今年度はいったん中止と決定しました。

10 月になり、Zoom も用いながら発明クラブ再開に向けての議論を指導員連絡会で重ね、大学の危機対策本部とも相談を行いました。結局、人数を少なくするために小学 6 年生だけを対象にして、3 回の連続講座を開くことができました。その際、感染症対策のため、高齢の指導員はオンラインの遠隔指導のみを行い、若い指導員がクラブ員小学生のそばで工作指導を行う形式としました。そしてたいへん喜ばしいことに、島崎俊介学術技師（兼発明クラブ指導員）の働きかけにより、情報工学工房を受講している現役電通大生も複数名が指導員ボランティアに参加しました。わたしたち電通大発明クラブは、実際のモノをさわりながらはんだ付け等の工作をクラブ員本人がおこなって、モノづくりの楽しさを味わうことを重視しています。オンラインの遠隔授業では実現できない要素ばかりではあるのですが、可能な範囲でのオンラインの取り入れの検討と試行は今後も継続していきます。

令和 3（2021）年度は、1 年前に当選していた新 6 年生以下の 35 名を対象として発明クラブの開催を予定しています。そして令和 3（2021）年 1 月には、例年行っている次年度のための発明クラブ員の募集を行えなかったのは、残念でなりません。「今年は発明クラブ員の新規募集は行わないのか」という問い合わせもいただいており、申し訳なく思っております。

一般から 20 名を募集して開く 2 時間の子ども工作教室は、令和 2（2020）年度は全面中止としました。近隣の PTA などにでかける出前講座も、行えませんでした。また、2 年目以降の発明クラブ員の活動も、ほとんどが中止となってしまいました。次項以降に活動の内容を記します。

表 1. 平成 31・令和元（2019）年度 発明クラブ／工作教室 15 期本科 42 名の活動のうち、令和 2（2020）年 3 月のものは中止となった

当期回数	通算回数	日付	形態	内容
18	337	R2/01/11 (土)	発明クラブ	光オルゴールの製作 演奏発表会
19	338	R2/02/01 (土)	工作教室 /発明クラブ合同	静電気と遊ぼう
20	339	R2/03/07 (土)	工作教室 /発明クラブ合同	エアクッション艇を作る 【中止】
21	340	R2/03/28 (土)	発明クラブ	修了式 【中止】

表 2. 令和 2（2020）年度 発明クラブ 16 期本科 6 年生 3 名の活動（工作教室は中止）

当期回数	通算回数	日付	形態	内容
1	339	R2/12/19 (土)	発明クラブ	光オルゴールの製作 プリント基板
2	340	R3/02/13 (土)	発明クラブ	本体ケース
3	341	R3/02/20 (土)	発明クラブ	音楽テープ



2020年 12月19日(土) 14:00-16:00 第1回(16期生) 通算339回
電気通信大学 80周年記念会館 3階

光オルゴール その1





- COVID-19 でずっと開けなかった発明クラブ、再開しました！ 密にならないように、今年度は6年生のみに人数を制限して、クラブ員は3名。数回で光オルゴールの完成をめざします。
- 開講식을1分で終え、さっそくはんだ付けからとりかかります。プリント基板に抵抗とICソケットをはんだ付けしていきました。
- 発明クラブもオンライン講座を初体験です。2階からリモートで説明を行い、3階でクラブ員の活動を現役電通大生がサポートしました。





2021年2月13日(土) 14:00-16:00 第2回(16期生) 通算340回
電気通信大学 80周年記念会館 3階



光オルゴール その2



- 光オルゴールの2回目です。緊急事態宣言で1ヶ月ほど中断しましたが、3名ともはんだづけをうまくできていました。
- 発明クラブ指導員も今回は遠隔から指導を行いました。生徒の顔を見えるようにタブレットをうまく使いました。
- 残りあと1回で完成予定です。生徒の皆さんのオルゴールの音が楽しみです！



2021年2月20日(土) 10:00-12:00, 14:00-16:00 第3回(16期生) 通算341回
電気通信大学 80周年記念会館 3階



光オルゴール その3



- 光オルゴールの3回目です。オルゴールの音楽テープをカッターで切り取り、それぞれ音楽を流してみました。電通大生の学生ボランティアもオルゴールを作成して苦戦しましたが、子供たちの方がすぐ出来てびっくりしました。
- 遠隔の指導員にも、子供たちが作ったオルゴールの音楽が聞こえたので感動しました。3名とも、短い期間でよくできました！
- 最後に、子供たちとオルゴールの教材と指導を担当してくれた指導員と記念写真を撮って2020年度の発明クラブは終了しました。今後は、家でオルゴールの音楽テープを作成して流してみてください。



発明クラブ 工作教室 についての 経過

(※コロナ禍という過去に例のない極めて特殊な状況下での運営対応となった。将来の参考のために、付録として対応の経過を以下のとおり記す。)

(a) 令和 2 (2020) 年 3 月までの活動について

- * 3 月実施予定の活動、修了式 は 中止。修了証 を郵送。
- * 3 月の活動で完成させて持ち帰る予定であった 特別研究生マイコンコース 11 名 の 4 足歩行ロボットは、ずっと返却できず。 9 月 9 日 (水) に指導員がリサージュでようやく工作を完成させ、9~10 月に、11 名のクラブ員小学生とメール連絡をとり、電通大に受け取りにきてもらって返却完了。

(b) 令和 2 (2020) 年 4 月からの活動 (1 年目の 42 名の本科小学生 (3 から 6 年生) 向け)

- * 3 月 7 日 (土) (B202 室) の抽選会は中止。抽選によりクラブ員は確定し、連絡。開講延期のお知らせを 3 月 18 日、4 月 7 日、5 月 26 日 にメール送付。その後 7 月 20 日に、2021 年 3 月までの中止を連絡 (次頁参照)。

(c) 令和 2 (2020) 年 4 月からの活動 (2 年目以上の特研究生発明工夫コース 22 名 (小 4 から中 2) 向け)

- * 4~6 月 希望者向けに メールのやりとりで 発明工夫アイデア出し などの遠隔指導。
- * 本科生と同様に、7 月 20 日に、令和 3 (2021) 年 3 月までの中止を連絡。
- * 公益社団法人 発明協会 が毎年東京工業大学の屋内運動場で開催しており、調布発明クラブからも 1 組が 5 年連続出場している 全国少年少女チャレンジ創造コンテスト も中止。
- * 第 79 回全日本学生児童発明くふう展 に 令和元 (2019) 年度製作の 5 作品応募 (小 6 ~中 3、9 月 25 日)。
- * 調布少年少女発明クラブ有志、特研究生有志 で 異能 vation 破壊的な挑戦部門 に応募 (8 月 27 日)。

(d) 指導員情報交換会 など

- * 3 月 9 日、地域交流懇談会中止に伴い、10 年以上活動している 3 名の指導員への感謝状贈呈式を学長室で開催。(前学長 福田喬先生)
- * 10 月 15 日 (木) から指導員情報交換会 を再開。(週 1 回程度。主に Zoom にて。)

(e) 令和 2 (2020) 年 12 月から令和 3 (2021) 年 2 月の活動。6 年生対象の本科小学生

- * 発明クラブの再開には参加人数を減らす必要があること、および次年度は中学生となってしまう 6 年生を対象にしたいことから、11 月 19 日 (木) に、6 年生限定の再開をクラブ員小学生に案内。12 月から 2 月にかけて実施。緊急事態宣言により 1 月には 1 か月間中断。

発明クラブ 中止の案内文 (令和2(2020)年7月20日)

調布少年少女発明クラブ
会員及び保護者の皆様へ

会長 奥 野 剛 史

皆様には、発明クラブ会員に当選されたにも関わらず、新型コロナウイルスの感染拡大、感染予防のため、一度もクラブを開催できず今日まで来てしまい、申し訳ありませんでした。5月には、夏休み終了後からの活動を目指したいとご連絡していましたが、ここに来ての東京都の感染者の急激な拡大により、状況が大きく変化してしまいました。

このため、主催者である電気通信大学とも活動開始について相談してきました。大学では現在、学生もオンライン授業で、教育のために真にやむを得ないと認められた者のみ入構が認められており、外来者の入構は厳しく制限されております。ここでの感染者増によって、この状況がさらにいつまで続くのか不明な状況になってしまいました。また、大学の活動は未だ限定的で制約のある中でしかできない状態で、その中で発明クラブの活動をスタートさせることは難しいと考え、今年度は残念ながら現状では中止とせざるを得ないとの判断をしました。ご理解いただきますようお願いいたします。

なお、来年度も発明クラブの活動を行えるかどうか現時点では不明ですが、現在3～5年生の皆さんは、希望する場合には来年度クラブに参加できるように考えています。また、6年生についても何らかの形で参加できるように考えたいと思っています。

今後状況が改善し、大学の入構制限が解除され、一般開放された時には、今年度内に何回かの活動が行えそうになりましたら、改めてご連絡させていただきたいと思います。何卒、よろしくお願い申し上げます。

皆様もコロナウイルスには、くれぐれもご注意ください。

渋谷区教育委員会との連携

本学は、従来の多摩地区自治体との連携に加え、平成 21 年 7 月に、23 区として初めて渋谷区教育委員会と教育連携協定を締結しました。

同委員会とのそれまでの協力関係の更なる強化を図り、児童・生徒の科学的思考やものづくりへの意欲を育てる教育的プログラムの開発・提供に関することや、学校教育の支援に関することなどにおいて連携していくこととしました。

これを踏まえ、本学では、渋谷区こども科学センター・ハチラボでの出前講座や、サイエンスフェスタへの参加を行っています。

令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、例年参加している夏休みワークショップ及びサイエンスフェスタ（ハチフェス）への参加が叶わず、ハチラボ科学クラブへの出前講座 1 件となりました。

○ハチラボ科学クラブへの企画

【企画名：発光の科学】

(1) 日 時 令和 3 年 1 月 9 日（土）14:00 - 16:00

(2) 場 所 渋谷区こども科学センター・ハチラボ

(3) 参 加 者 11 名（定員 12 名）

（小学 5 年生 3 名〔男子 2 名・女子 1 名〕、6 年生 8 名〔男子 7 名、女子 1 名〕）

(4) 講 師 情報理工学研究科基盤理工学専攻 牧 昌次郎 准教授

情報理工学域・情報理工学研究科 学生 6 名

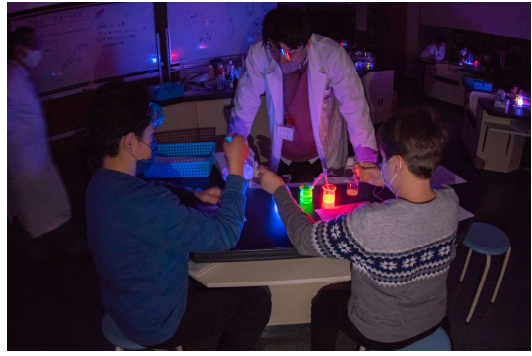
(5) 活動テーマ

酵素で発光するホタルの原理を試験管で再現して、生体機能を人間が人工的に創ることができるかどうか確かめてみる。

(6) 概 要

発光の実験として、化学発光の実験を行った。RGB の発光液を混合することで化学反応による発光を実体験し、白色光を作ることに挑戦したり、光る液体を混合して、自分の好きな色を作ってみたりした。

当研究室の研究員と大学院生が各班に 1 名付き、危険な試薬や複雑な手順を丁寧に指導することで、一般に子供実験では難しい、高度な実験も安全かつ正確に遂行できた。質問にもその場で対応し、他の理科実験教室とはレベル・内容・指導の質で差別化できた。



出前講座「プログラミング・ワークショップ」

令和2年11月28日（土）及び令和3年2月6日（土）に、調布市立第二小学校で笹倉理子学術技師（教育研究技師部）によるプログラミング・ワークショップを開催しました。

本講座は、調布市が作成する出前講座のパンフレット（協力団体編）に本年度から新たに掲載したプログラミング・ワークショップ（大人向け／子供向け）について、同校の依頼を受けて実施するものです。

11月は4年生、2月は5年生（各学年2クラス、48名）を対象に、1クラスあたり約90分の時間で、本学の紹介、プログラミングにまつわる世界の状況に関する話に続き、各児童に用意されたタブレット端末を使用して、「Scratch Cat をくるくる動かして模様をかく」活動を行いました。

学校でプログラミング活動をするのは初めてということでしたが、前半の正方形を描く部分では正3角形や正6角形を描く方法を考えたり、後半の模様を描く部分ではどのようにしたらきれいな模様になるかを考えて工夫したりするなど、とても積極的に参加してくれました。

参加した児童からは、「プログラミングという名前は聞いたことがあったけど、授業を聞いて実際にどんなものか分かった」、「プログラミングはやったことがあったけど、こんなこともできるなんて驚いた」、「もっと長い時間やっていたかった」などの感想が寄せられました。



夏休み小・中学生科学講座

「大津サイエンス☆ラボ～磁石で動く謎の液体」

神奈川県横須賀市大津コミュニティセンター（以下、大津コミセン）からの依頼で、昨年度に引き続き、同一の内容の小中学生向け科学講座を開催した。新型コロナウイルス感染拡大の中で、対面での講座実施の可否の判断が難しく、zoomでの遠隔講座の可能性も探った（その場合は実験内容の大幅に変更することを前提として検討した）が、三密を避け、器具の消毒や、共同機器は講師または大津コミセンスタッフが操作を行うなどの対策をとり、予定通り対面で実施した。

- (1) 日 時 令和2年8月14日（金）14:00 - 16:00
- (2) 場 所 神奈川県横須賀市大津コミュニティセンター
- (3) 参加者 13人（小学5年生5人、6年生4人、中学1年生1人、2年生2人）
- (4) 講 師 電気通信大学共通教育部自然科学部会 中村 仁 准教授
- (5) 活動テーマ

通常は高温焼成での酸化によって生成される黒錆の微粒子を、化学反応によって作製する。さらに界面活性剤と混合し磁性流体の作製を行う。この流体の不思議な特性について体験する。

(6) 概 要

以下のスケジュールで実施した。

- 13:00 - 準備・打合せ
- 14:00 - 14:15 パワーポイントを用いた講義
- 14:20 - 15:30 磁性流体の作製・観察
- 15:30 - 質問&片付け

価数の異なる鉄イオンを含む酸性水溶液をアルカリで中和していき、黒錆の微粒子を生成する。小さな微粒子を作るためにゆっくりと反応を進め、化学反応実験の特徴である色の変化などを丁寧に観察しながら実験を行なった。赤褐色の液体の色が段々濃くなり、最後は真っ黒の液体になった。磁石につく沈殿物に界面活性剤を混ぜると粘性の高い液体になり、スパイク現象が観測出来た。

以下、参加生徒のアンケートより（自由記述、原文のまま）。

- ・おもしろかったです。楽しかったです。ありがとうございました。
- ・少し難しかったけど最後はちゃんとできたのでたのしかった。
- ・とてもわかりやすかったです。

- ・見本みたいにギザギザにならなかったけど楽しかったです。
- ・久しぶりに実験ができておもしろかったです。

また、後日保護者の方からも以下の感想が寄せられた。

- ・いつもなら夏休みに入るころあちこちの講座のお知らせが配布されるのですが、ほとんどなくコミセン講座はとても良い機会でした。磁性流体という不思議な液体でずっと遊んでいます。講座の様子を子どもから聞き、短い夏休みのいい思い出になりました。(中1女子母)
- ・なかなか積極的に参加しない子なのですが、思い切って申し込んで参加したら、面白かったといって帰ってきました。ご指導ありがとうございました。(中1男子母)

【当日の様子】



埼玉県松伏町科学教室

情報理工学研究科 准教授 守 裕也

1. はじめに

令和2年11-12月の3日間において、本学、東京理科大、東京大の3大学が共同して埼玉県松伏町の小学5年生全員を対象とした科学教室を実施した。責任者である守が同教育委員会からの依頼を受け東京理科大学在籍時の平成29年度より行なっており、今年で通算4年目となる。

本科学教室は、講師による講話・実験実演、児童同士のディスカッション、児童自身による簡単な工作の三部より構成され、児童の科学への関心を刺激することを目的としている。大学における最先端の研究を小学生にわかりやすく紹介・実演し、これらの話題提供から児童がどのように感じ、また周囲との話し合いにより、考えが成熟していくプロセスを児童に体験させることを意図した内容としている。

運営は、3大学の研究者が主となり、同教育委員会担当者の強力なバックアップおよび学生のサポートにより行われた。学生に対しては、児童との交流を通して伝え方の改善など、大学内では得ることのできない教育効果も狙っている。

本年は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い科学教室も開催が危ぶまれたが、小学校側および大学側ともにマスク着用、手指消毒などの感染対策徹底した上での開催となった。

2. 実施日時

令和2年11月10日（火）3・4校時	松伏小学校 体育館
令和2年11月18日（水）3・4校時	松伏第二小学校 多目的室
令和2年12月2日（水）3・4校時	金杉小学校 体育館

3. 講師（東京理科大・東京大と共同開催）

電気通信大学	情報理工学研究科	准教授	守 裕也	・学生10名
東京理科大学	工学部機械工学科	嘱託助教	福留 功二	・学生8名
東京大学	生産技術研究所	特任助教	亀谷 幸憲	

4. 実施概要

各小学校において、以下の内容で実施した。

(1) 理科・科学全般に関する講話及び実験実演（30分間）

大学における最先端の研究結果を小学生にわかりやすいよう簡単にした上で紹介した。「空気砲」による実演も実施し、児童の印象に残ることを狙った。今年度より加湿器を用いた流れの可視化により、空気砲の様子をより詳細に観察させた。

(2) ディスカッション(30 分間)

「生き物がみんなの身近で役に立つ！？みんなで考えよう！」をテーマに、講話から児童が学んだことを生かし、配布するワークシートに記述し、周囲とディスカッションさせた。児童自身のアイデアを周囲との共有・議論により成熟したものにするプロセスを経験させ、その大切さを学ぶことを狙った。

(3) 工作チャレンジ 「浮沈子（ふちんし）を作ろう！」（30 分間）

児童が持参したペットボトルを用いて「浮沈子」を作成し、その様子を観察する。またこの現象が何に使えるかを児童同士でディスカッションさせた。

総じて、児童たちは目を輝かせて集中力を切らすことなく参加した印象を受けた。児童からの発言が多数あり、良いアイデアを出す児童もいたことから、本科学教室における目的は果たせたと考えている。学生サポートも児童との交流を通じて「いかにわかりやすく教えるか」を心がけるようになっており、教育効果が得られたと考えられる。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い小学校では行事のほとんどが中止となっていることから、児童にとっては例年以上に印象深い科学教室であったと思われる。



各小学校における科学教室の様子

4. ボランティア推進室の活動

- ボランティア活動支援
- 学生からのボランティア活動報告
- ボランティア養成講座
- 調布市・東京都教育関連セクターとの連携
- 花植え活動

ボランティア活動支援

1) ボランティア活動マッチングシステム

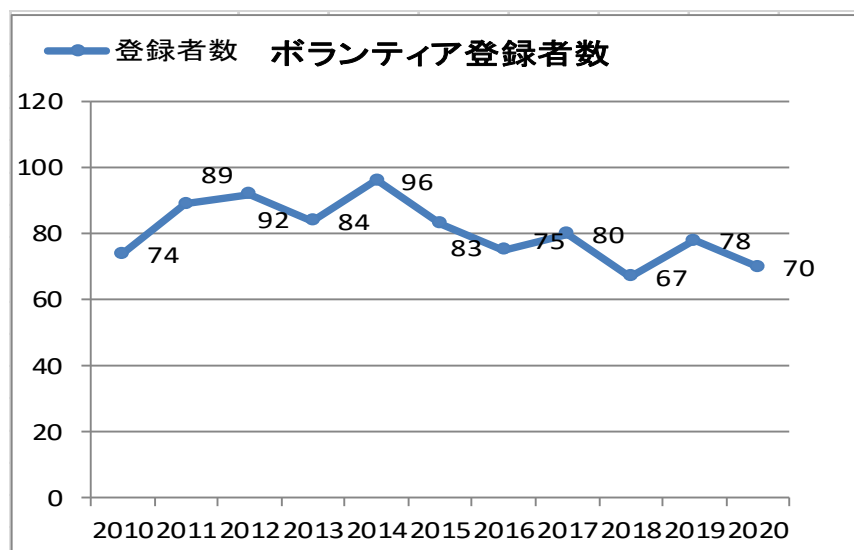
本学では、平成 18 年度より Web によるボランティア活動マッチングシステムを運用している。ボランティア活動を希望する学生がこのシステムに登録すると、本センターに届いたボランティア募集情報がメーリングリストを通して配信される。実際に活動を行う場合は、学生がボランティア募集元へ直接問い合わせ、申し込み等を行って活動を行う。活動終了後は、報告書を提出するよう学生に依頼しており、その報告書に基づいて、本センターから毎年数名の学生表彰対象者を推薦している。

また、教員養成課程を履修する学生を支援する教職課程支援室の取組が年々充実し、教職課程に特化したボランティア活動マッチングシステムが数年前から立ち上げられている。現在は、両システムがお互いの長所を生かしつつ併存している。

2) マッチングシステムへの登録学生数

まず、本センターのボランティア活動マッチングシステムへの学生登録数について述べる。登録数は、平成 23 年の東日本大震災をきっかけに増加し、その後数年は概ね 80～90 名で推移していた。しかし、年々それらの学生が卒業・修了していく一方で、それよりも多くの新規登録数を得られない状況が続き、近年は、東日本大震災前の水準に戻りつつあった。さらに、本年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で、オリエンテーションなどの新入生向けに本システムについて周知する場が設けられなかったこともあり、新規加入者が 5 名と少なく、全体としては前年度から数を減らして 70 名となった（図 1）。

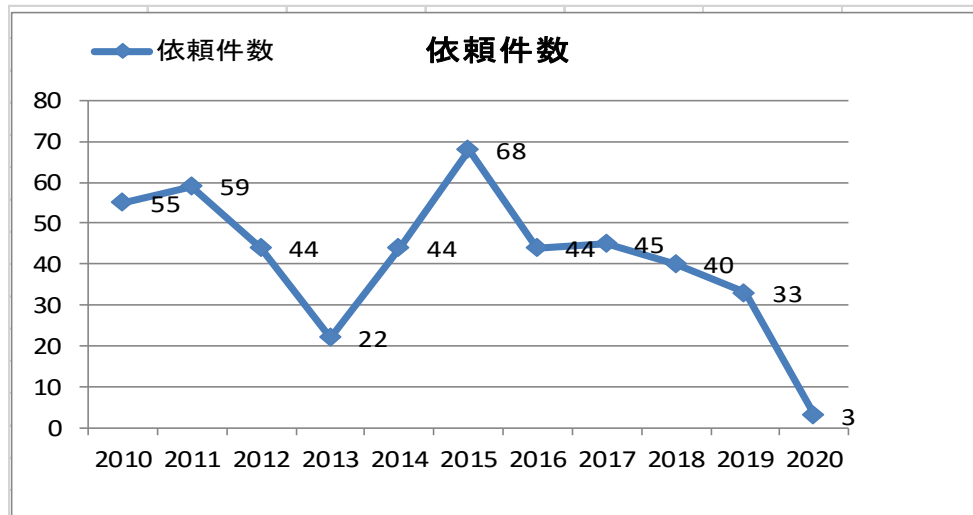
図 1 ボランティア登録者数



3) 本年度のボランティア依頼件数と動向

次に、ボランティア依頼件数について述べる。本年度のボランティア依頼は 3 件のみと、これまでに類を見ない少なさとなった（図 2）。これは、従来ボランティア依頼を行っていた活動の多くが、前述の新型コロナウイルス感染拡大により、実施することができなくなってしまったことによるものと推測される。

図 2 ボランティア依頼件数



本センターへの依頼による活動の他に、前述の教職課程支援室を介して多くの学生が調布市内の小中学校や教育関連施設等にて学習支援などの活動を行っている（cf. 52 頁）。

4) まとめ

これまで、学生からの活動報告が極めて少ないことが積年の課題だったが、本年度は 1 人の学生から定期的に充実した活動報告が行われた（cf. 47 頁）。これらの報告は他の学生が活動する際の参考となるよう、社会連携センターWEBサイトに掲載した。こうした報告がたくさんの学生から寄せられ、それを読んだ学生がボランティア活動に参加するというようなサイクルにつながっていくことを大いに期待したい。

また、ボランティア活動を志す学生団体として、「草のおと」が引き続きキャンパス内の花壇の手入れ・植栽活動を行っている（cf. 53 頁）。本年度は前半期に学生が登学禁止となるなど、コロナ禍により活動の大幅な制限を受けたが、今後もメンバーの各学生が学んでいること、得意とすることを強みとして、学内外の協働者を増やしながら精力的に活動し、地域に貢献することが期待される。

ボランティア活動においても調布市との連携が強化され、年々地元での活動基盤が整いつつあることは、地域社会に対する貢献活動を志す本センターとしては非常に喜ばしい限りである。今後も学内、学外との連携を深めつつ、地域に根差した活動を続けていく所存である。

表 1：令和 2 年度ボランティア活動依頼

No.	受付日	団体名	依頼内容	依頼区分
1	R2/04/10	調布市立第八中学校	土曜学習部 学習支援ボランティア	A
2	R2/07/08	調布市立石原小学校	児童との会話ボランティア	A
3	R2/08/27	公益財団法人 東京都農林水産振興財団	とうきょう林業サポート隊 ボランティア募集	B

依頼区分別集計

A（教育指導補助）： 2 件

B（野外活動等補助）： 1 件

C（福祉・災害支援活動）： 0 件

D（講座・フォーラム等のスタッフ）： 0 件

E（上記に分類されないもの）： 0 件 計 3 件

学生からのボランティア活動報告

— 障害をもつ方へのパソコン教室 —

本年度は、学生が参加したボランティア活動として、調布市希望の家で実施した「障害をもつ方へのパソコン教室」について、情報理工学域2年生の名執陸さんから、社会連携センターに報告があった。

【第1回：令和2年10月21日（水）】

○活動内容：

調布市希望の家という調布市社会福祉協議会が運営している障がいをもつ方が通われている施設で、パソコン教室を開催しました。特に募集があったわけではなく、普段私が学習支援に参加させていただいている「ここあ」（調布市子ども・若者総合支援事業）の職員さんから声をかけられ、電通大生によるパソコン教室があったら嬉しいとお話を受けたので、担当の方を紹介していただき見学を事前に行った上で、開催に至りました。

当日は4名の方とスタッフにご参加いただき、11月の自分の予定表をパソコンを使って作る体験をしていただきました。皆さんにご満足いただけたとのことで、1ヶ月に1、2回ほど定期的に開催させていただくことになりました。

次回の日程はまだ決まっていますが、11月中に、今度はもう少し難易度を下げて名刺を作ることになりました。

○活動後の感想・アドバイス：

障がいを持つ方はずっと集中するのが苦手だという印象を持っていましたが、当日は2時間ほどやったにもかかわらず、最後まで集中して指示を聞いて作業してくださり、非常に驚きました。さらに、かなり複雑で難しい内容だったのですが、4名とも完成させ、印刷してお渡しすることができました。やり方さえわかればどんな方だってできるということを再認識しました。障がい者の方々は普段パソコンを使うことは少ないようで、前々からパソコンを使って作業することに興味があったそうです。

【第2回：令和2年11月18日（水）】

○活動内容：

今回は第2回ということで、5名の方に名刺を作る体験をしていただきました。使用ソフトはMicrosoft Wordで、テンプレートを編集しながら、印刷して切り取るころまでやっていただきました。

前回よりも難易度を下げた内容とはいえ、休憩を挟みながら2時間近く作業をしていただきましたが、受講者の方々は最後まで指示を聞いてくださいました。

テンプレートを利用したため、皆さん全く違ったデザインになりましたが、共通の作業はプロジェクターで私の画面を映してそれをもとに手を動かしてもらい、一人ひとり違うところは一人ずつお手伝いしたり、スタッフの方の手をお借りしたりして対応しました。

ご自分のお名前や希望の家の住所・電話番号に加え、皆さんにインターネットを使って好きな画像を検索していただき、それを名刺の中に挿入していただきました。最終的に5人の方とも素敵な名刺を完成されていました。

今後は毎月第3水曜日に実施することになりました。次回は12月16日で、年賀状をデザインする体験をしていただく予定です。

○活動後の感想・アドバイス：

前回と異なり一人ひとり形式や作業が違ったので、見回って対応するのが大変でした。しかし、皆さんが楽しんで作業されていて、手順をお教えすることを通して私も非常に良い経験をさせていただきました。



(教室の様子)



(作成した名刺のサンプル)

【第3回：令和2年12月16日（水）】

○活動内容：

第3回となる今回は、5名の方に年賀状を作る体験をしていただきました。使用ソフトは前回同様 Microsoft Word で、テキストボックスを挿入して好きな文字を入れたり、インターネット上にある好きな画像を入れたりして作っていただきました。

今回は前回名刺を作成したときよりも自由度が高く、はがきの体裁を整え、テキストボックスや画像の挿入方法を一通りお教えした後は、自由に作っていただきました。一から自分で作る方もいらっしゃるが、インターネット上にあるテンプレートを見つけてそれをもとに作った方、自分のお写真を入れた方、さらには私が持って行った例と全く同じように作りたいという方もいて、5人とも全く違うデザインのものを完成されました。

次回の開催は来年の1月13日で、「防災マップを作る」又は「節分のポスターを作る」を予定しております。

○活動後の感想・アドバイス：

前回同様一人ひとりやるべきことが違うので、スタッフの方にも協力していただきながら見回って対応しました。皆さん長時間私の説明を聞いてくださり、更には「こうしたいんだけどどうするの?」といった形で中身のある質問をたくさんしていただき非常に嬉しかったです。



(年賀状のサンプル)

公開講座「ボランティア養成講座」

― 調布市における子ども・若者支援活動と電通大生 ―

1. 目的

電気通信大学が所在する調布市では、家庭の諸事情により進学や就職を諦めてしまうようなことがないよう、子ども・若者に対して学習支援や居場所を提供する取組を行っている。

本講座は、そうした支援活動に取り組む方々を招き、学習支援ボランティアの必要性和役割について講演していただくとともに、当該活動に実際に関わる学生にもボランティア活動体験談とその意義について話をしてもらうものである。

2. 開講日時・場所・参加者数

日 時：令和2年12月1日（火）16:30 - 17:30

場 所：電気通信大学東5号館241教室（Zoomによるオンライン同時配信）

参加者数：一般市民及び本学学生・教職員 34名（うちオンライン受講29名）

3. 講座概要

開講にあたり、本講座を企画し司会を務めた武石 典史 社会連携センターボランティア推進室長から、大学にとって、所在する地域との社会連携、地域貢献は極めて重要な使命であることから、調布市がどのような課題に直面し、福祉等の専門家がその解決に向けてどのように対応し、そして電気通信大学関係者がいかに関わっているのか、それぞれの当事者が状況を共有することで、今後の電気通信大学と調布市、調布市民との望ましい関係を考えるきっかけとしたい旨の本講座の趣旨説明を行った。

続いて、調布市子ども・若者総合支援事業「ここあ」 田村 敦史氏から「調布市社会福祉協議会ここあについて」と題し、「ここあ」の事業（相談事業、学習支援事業、居場所事業）の紹介とその強みや、実際の現場の様子、支援に取り組む上での難しさなどについて講演があった。また、学習支援事業の中で重要な役割を担う学生ボランティアの中で大きな割合を占める電気通信大学の学生の活躍についても紹介があった。

次に、電気通信大学情報理工学域2年生 名執 陸さんから「ボランティアの楽しみ方」と題し、「ここあ」における学習支援やその他の障害者支援、被災地支援など、これまでに参加したボランティア活動の紹介とそれらから学んだことについて話があった。また、自分の経験と学びのためにボランティアをするという意識・目的を持って取り組むことでボランティアを楽しむことができる旨の話があった。

最後に、学習支援コーディネーター 西牧 たかね氏から「支えること・支えられること」と題し、学びについて悩む中学生の実例を挙げ、そうした生徒にとって「ここあ」における電気通信大学学生を中心とする大学生ボランティアは希望・憧れの存在にもなっている旨

の話があった。また、「ここあ」が大学生にとっても出会いの場、自分の生きる意義を感じる場、人間とは何か・社会とは何かを学ぶ場となってほしいと願っており、「ここあ」の名前の由来のとおり、支援を受ける中学生・支援を行う大学生の双方にとって「ここから明日に歩いていく」ための場となるよう日夜活動している旨の話があった。

今回は、地域に関する身近なことで、学生も大いに貢献することができる取組をテーマにしたことから、質疑応答では、参加した学生から、こうした活動に対して周囲の学生にどのように動機付けをしていけばよいか、といった質問が上がるなど、参加者の関心も高く、盛況のうちに、奥野 剛史 社会連携センター長の挨拶により終了した。



調布市子ども・若者総合支援事業「ここあ」

田村 敦史氏



名執 陸 さん



西牧 たかね氏



奥野 剛史 社会連携センター長（閉会の挨拶）

調布市・東京都 教育関連セクターとの連携

— 教職課程部会の取組 —

共通教育部 教授 武石 典史

1. 東京都立調布特別支援学校との連携：ICT 教材開発ボランティア

本学の水戸和幸准教授（社会連携センター副センター長）が東京都立調布特別支援学校と連携して取り組んでいる「ICT 教材開発」に、毎年、教職課程の学生がボランティアとして参加してきている。6 月頃に、特別支援学校の先生方から教材開発の依頼リストが届き、学生とのマッティングによりマンツーマンでの ICT 教材を作成する。教材作成はほぼ夏季休業中に行われ、12 月頃には完成して、特別支援学校の児童・生徒に試用してもらい、さらに改善をする。最終的には著作権譲渡の手続きをして特別支援学校に ICT 教材を提供する。1 月末には、調布特別支援学校にて、ICT 教材発表会を行う。教職課程の学生が、介護等体験を行う学校でもあることから、教職課程の学生がこうしたボランティア活動を行うことは大学として連携をしていく上で重要な取り組みであるといえる。

2. 調布市の諸団体と連携して活動

（1）調布市立中学校の学習支援ボランティア

教職課程の学生を中心として、調布市教育委員会等が募集する中学校の学習補助ボランティアには個々応募して参加している。今年度は調布第七中学校の補習授業に、学習支援ボランティアとして教職課程の学生が参加した。学習支援の他にも課外活動での支援も行っている。

（2）調布市社会福祉協議会「ここあ」学習支援活動

調布市社会福祉協議会が運営する、経済的に困難な生徒への学習支援「ここあ」（調布市子ども・若者総合支援事業）に参加して、中学生たちの、主に数学や理科の学習をサポートする取り組みに、教職課程の学生をはじめ本学の学生たちが多数、参加している。

花植え活動

1. 活動の概要

本館前花壇の花植え活動は、平成 15 年 6 月から平成 29 年 11 月までの「調布花・はなの会」のボランティアによる活動の後、平成 30 年度からは、フラワーアレンジメントに造詣の深い atelier Kusamura の半谷京子氏に、本館東側バラ園の管理と併せて、ボランティアにて引き継いでいただくこととなった。

本館前花壇には、半谷氏の監修・指導の下、「カラーボーダーガーデン」(※)を築き、気持ちの良い癒しの空間としての花壇づくりを目指して、本学教職員や学生ボランティアグループ「草のおと」、近隣住民等が協働して作業に取り組むこととしている。

※カラーボーダーガーデン

花などの色が同系の植物を多数植えて作る、同色でまとまった花壇のこと。

本学の花壇には、ピンク、ホワイト、ブルー、イエロー、レッドの 5 種類のカラーボーダーガーデンを作り、なるべく手のかからない宿根草（根や株が残り次の年も育っていく植物で、毎年植え替えを必要としない）や多年草を多く使い、根や株を大切に、大きく育て、その植物本来の立体的な姿が美しいボーダーを目指す。

2. 令和 2 年度の活動状況

令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、9 月末日までは学生の登学が禁止され、学外者の入構も制限されたことから、半谷氏を招いた作業を行うことができない中で、7 月 22 日に作業を行うことができた。

10 月以降は、学生の登学禁止は解除されたが、依然としてコロナ禍の収束が見えず、集まっの定期的な作業が行えない中で、3 月に草のおとを交えて作業を行うことができた。

(1) 7 月 22 日 (水)

半谷氏、天野なお子氏 (atelier Kusamura)、土屋英亮教授、君島総務企画課主任、中尾社会連携センター事務補佐員の計 5 名により、本館前花壇の手入れ作業を行った。



(2) 3月5日(金)・9日(火)

卒業式及び入学式に向けて、半谷氏、天野氏、奥野剛史社会連携センター長、土屋教授、草のおとメンバーの宮本愛子さん、小杉あかねさん、君島主任の計7名により、本館前花壇に計15種類(157株)の草花の植栽を行った。

また、3月5日の作業前には、半谷氏と社会連携センターの教職員とで今後の活動について打合せを行った。



(3) 日常的な活動

上半期は、半谷氏や草のおとが作業を行えない状況を踏まえ、土屋教授が、夏の厳しい時期も含めて、日々の散水、枯れた草花の剪定や雑草の除去等の日常作業を継続的に実施し、花壇の良好な状態を保持した。

下半期は、コロナ禍の状況を見ながら、半谷氏や天野氏、土屋教授が定期的に花壇及びバラ園の手入れ・環境整備を行った

社会連携センター運営委員会委員

(令和3年3月末現在)

奥 野	剛 史	基盤理工学専攻・教授
坂 本	真 樹	情報学専攻・教授
水 戸	和 幸	情報学専攻・准教授
宇 都	雅 輝	情報・ネットワーク工学専攻・准教授
西 野	順 二	情報・ネットワーク工学専攻・助教
宮 嵩	武	機械知能システム学専攻・教授
金 森	哉 吏	機械知能システム学専攻・准教授
守	裕 也	機械知能システム学専攻・准教授
牧	昌 次 郎	基盤理工学専攻・准教授
武 石	典 史	共通教育部・教授
佐々木	啓 子	共通教育部・非常勤講師
奥	浩 昭	共通教育部・非常勤講師
中 村	仁	共通教育部・准教授
岡 田	英 孝	共通教育部・教授
大河原	一 憲	共通教育部・准教授
土 屋	英 亮	情報基盤センター・教授
志 賀	幹 郎	国際教育センター・准教授
桐 本	哲 郎	産学官連携センター・特任教授
吉 川	光 子	社会連携センター・客員教授
中尾	苗々 恵	社会連携センター・非常勤職員
笹 倉	理 子	教育研究技師部・学術技師
村 田	輝	学術情報課長
田 端	敬 正	総務企画課広報・基金・卒業生室長
君 島	龍 太 朗	総務企画課広報・基金・卒業生室基金・卒業生係主任

社会連携センター Annual Report 2020

国立大学法人電気通信大学 社会連携センター

令和2年度 年次活動報告書

発行年月 令和3年3月

発行者 国立大学法人電気通信大学 社会連携センター

〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘1-5-1

電話 042 (443) 5880

E-mail desk@ccr.uec.ac.jp

URL <http://www.ccr.uec.ac.jp>

編集 田端 敬正（電気通信大学総務部総務企画課）

君島 龍太朗（ ）

中尾 苗々恵（電気通信大学社会連携センター）

